

十夜ヶ橋



弘法大師の頭の上をトラックが二重に通る



弘法大師は橋の下で



遍路にスタートするとき、橋の上では 杖をついてはならんといわれた

弘法大師御野宿所 とよがはし えいとくじ 十夜ヶ橋 永徳寺

今から千二百有余年前、弘法大師が四国しゅんせき巡錫中、この辺りにさしかかった時、日が暮れてしまい泊まるどころもなく、空腹のまま小川に架けた土橋の下で野宿をされました。わずか一夜のことではありましたが、夜明けまでは、それこそ十夜の長さにも感じられる思いで過され、「行きなやむ 浮世の人を渡さずば一夜も十夜の橋と思ほゆ」と詠まれました。

これから、十夜ヶ橋と名がついたといわれ、また お遍路さんが橋の上を通る時、杖をつかないという風習もこの話から起ったと伝えられています。



水遁の術もある。「全部歩いたか」をかなり問われるので、
気にしていたが、私を道連れにして水遁の術



須崎市営の渡船だが、お客は我々二人だけ



この輪トンの術も乗客二人だけ



ここから足摺岬往復。国道がメインだが、海辺や山へ昔の遍路道をたどりながら、国・県道に行く。ほとんどトラックなどはこないのので山の小鳥どもの歌が聞こえる



魚つき保安林に行く



道標あり



歩道はなかったがトラックはこない。岬に用はないらしい。

